山弓連

平成12年
第1号

古豪・新鋭　競合して熱戦展開

段位別選手権大会（近的）

4月23日（日）小瀬武道館で開催。四種別、近的8射。全日本選手権大会・関東選抜大会の一次予選会をも兼ねて行う。

まず、三段以下の部。参加31名。ここはいわば新人の登竜門。ことしはどんな選手が頭角をあらわしてくるか楽しみだったが、結果的に、6中1人、6中7人が入賞圏内に残って、二、三位争いは競射となった。

四段の部は参加18名。6中者4人による優勝争いという結果となった。

五段の部は、もう少し層が厚いと思っていたが、意外にも参加10名しかなく、やや淋しい。優勝戦は、7中同士、団体チームの監督と選手による、いわば師弟対決となり、監督の勝ち。

称号の部は参加26名。申しこみ人数との差（つまり欠席者）も2名のみ。さすが。

しかし的中の方は7中3人のみで、やや不調。

女子の部を廃止して以後も、毎年どれかの種別で女子の入賞者が出たが、今年もこの種別で三位入賞があった。

各種別の入賞は次の通り。

種別	一位	二位	三位
三段以下	佃　重登（東八）7中	中込　康之（中巨）6中	小川　和男（西八）6中
四段	雨宮　正裕（東山）6中	岡本　和年（甲府）6中	桜井　健三（北巨）6中
五段	深沢　勇（中巨）7中	渡辺　元樹（吉田）7中	持永　浩史（医大）6中
称号	佐野　辰巳（韮高）6中	望月　勝男（韮北）6中	小林　弘子（中巨）6中

大会全体を省みて、ベテランの頑張りあり、また、新鋭の抬頭ありで、これからの楽しみを含んだ大会ではあったが、ひとつだけ惜しかったのは、8射皆中がどこにもなかったこと。県連の、権威ある大会には、やはりこれが欲しいと思った。次回には是非々々……。（これは締果子の勝手な感想。）

遠的大会

高校の部も……

4月16日（日）小瀬武道館の遠的射場で開催。かねてから高体連弓道部から要望（高校生に遠的大会、遠的練習の機会が少ないので、その経験を積ませる為に、県連主催の遠的大会に、人数を限定して参加させてほしい—との）があったので、今年は、一般の部男女、高校の部男女の四種別で実施。当日の参加人数は、一般男子25名、女子12名、高校男子9名、女子3名であった。各自8射、的中制の競技を行い、次の通り入賞がきまった。

種別	一位	二位	三位
一般男子	荒井　寿一（富）7中	渡辺　元樹（吉田）7中	保坂　兼光（西八）7中
一般女子	橋戸　梢（中巨）8中	保坂　亜紀（中巨）6中	大和田幸子（中巨）4中
高校男子	渡辺　幸太（富高）7中	宮坂　謙一（甲森高）6中	羽田　穂高（吉田高）6中
高校女子	宮崎　梢（上野原高）5中	渡辺　律子（吉田高）4中	大久保涼子（石和高）4中

かつて山梨は、「遠的王国」としてその名をとどろかした時代があった。古くは壇ノ浦合戦における浅利与一。時代が下って三十三間堂揚額の白須肩助選手（富士吉田・故人）また富山国体最高得点の古屋俊秀選手（現理事長）のような名人をも輩出した。これまで遠的射場の不足から練習の機会が少なく、やや他府県におくれをとった感があったが、幸い、小瀬武道館をはじめ、郡内地区にも設備（施設までは言い難いが）が整ったので、これを機会に再び、遠的王国をめざして頑張っていくことを切に期待しています。

全日本勤労者大会予選

6月に、仙台市で開催される、全日本勤労者弓道選手権大会には、例年の通り本県からは2チームの出場わくがある。その代表チームを選出する為の予選会が、4月9日（日）小瀬武道館で開かれた。ことしは、常連の松下電器が都合により不参加だったので、出場申しこみのあった、横河電機甲府と、東京電力山梨が、自動的に県代表に決まった。

しかし、せっかく集まったので、予選会を練習試合に切り替えて「4射×5人」の競技を2回行って（つまり、それぞれを、本大会の一次予選と二次予選に見たてて）本大会への意欲もり上げを図った。競技結果次の通り。

チーム	一回戦	二回戦
横河電機	20射11中	20射8中
東京電力	20射13中	20射10中

ちなみに、本大会での一次予選通過ラインは11中。二次予選は上位16チームということになるので、他チームの出来工合いにもよるが、例年13〜14中というところ。したがって両チームとも一次予選は通過、二次ゼンメツという卦が出た。しかしまだ期間は十分あるので、これからの練習量で、みごと予選突破を果してほしいもの。ガンバレ。尚、来年の予選会には、より多くの企業チームが参加することを切に願う。

ねんりんピック　大阪大会

山梨県代表選手決まる。

右大会の代表選手を選ぶ為の予選会が、4月9日に開催。選手のわくは、男5名、女2名。各自8射の競技を行った結果、的中順に次の7名が決定。

○男子　若尾孟夫（南巨南）内田武春（東山）平山孚（東山）伊藤昇（大月）山下達美（東山）

○女子　藤巻昭子（中巨）坂崎満子（東山）

本大会は11月3日〜6日に大阪で開催。

国体強化選手紹介

国体は競技会の華。そこで（国体）で勝つと一番強くみえる。本県でも国体入賞をめざし、昨年暮れから、文部推薦の選手や各種大会成績優秀選手などの中から発掘した選手を集めて、強化練習を続けてきている。4月現在で残っている候補選手（成年）は次の通り。

○成年男子

中込実人　五段（中巨）　萱沼　学　三段（吉田）
渡辺元樹　五段（吉田）　木村竜平　三段（吉高）
荒井寿一　四段（吉田）　岩根　豊　初段（吉田）
矢野宏幸　三段（東八）　中込康之　初段（中巨）

○成年女子

保坂亜紀　三段（中巨）　橋戸　梢　二段（中巨）
水上梨沙　三段（東八）　木下佳苗　初段（韮巨）
三森利子　三段（東八）

強化指導にあたっている指導陣は、

大村　利正　教士（南巨南）　部長
標　衣枝　教士（東山）　副部長・女子監督
深沢　勇　五段（中巨）　男子監督
標　興次　錬士（東山）　コーチ

尚、少年男女の部は、その性格上（技術の進歩向上の度合いが著しく、短期間に順位が入れ替わる）まだ30人以上の候補を対象にして指導している段階で、しぼりきれていない。候補選手たちもそれぞれ熱心に頑張っているので、激励、応援のことばをかけてやって下さい。

県内審査講習会

4月9日

この講習会は、その名の通り、四段以下受審者を対象とした講習だが、中には5月4日の連合審査（五段）を受ける為にとの熱心な受講者もまじって、総勢33名。審査会の流れ、内容に即して入退場のしかたから、射技体配の矯正、失の処理に至るまで、細々と指導を受けた。最後の仕上げの一手のときは、朝とは見違える程に上達しているのがみえた。願わくば、今日と同じ真剣さで稽古を積まれんことを。さすれば目標達成疑いなし。

ご冥福を祈る

深沢　寛　教士七段（増穂）

3月8日逝去、10日葬儀。かいじ国体の時の強化部長、男子チーム監督として活躍。その後競技部長4期。日弓連功労表彰。県体育功労賞。

渡辺　良雄　教士八段（勝沼）

3月22日逝去、24日葬儀。県連会長4期8年。かいじ国体成功に指導力を発揮。日弓連功労表彰。県体育特別功労賞。

ローカルニュース

大法師さくら祭り大会

4月2日一般、4日高校大会。桜の開花は間に合わなかったが、一般大会で、女子国体強化選手が並みいる強豪に競り勝って、一、二、四位を占めるという大活躍の花を咲かせてくれた。上位入賞は次の通り。

	一位	二位	三位
一般団体	山梨巨大 17	富士吉田 16	白根 15
一般個人	三森利子（中道）7	水上梨沙（石和）7	木村竜平（吉田）7
高男団	巨摩高A 23	巨摩高C 21	[illegible]高A 20
高男個	渡辺浩司（巨）9	三森太郎（巨）9	市川翔（巨）9
高女団	巨摩高B 17	白根高A 15	巨摩高A 13
高女個	深沢瑞穂（白）10	河西末綾（巨）6	斎藤早紀（巨）6

四位保坂亜紀 7

増穂あやめ祭大会

5月7日、参加150名の盛会。近的、遠的二種目で熱戦展開。大会最大の盛りあがりは近的優勝決定の射詰め戦。両者相譲らず、8射まで的中が続き、9射目小的決戦でようやく結着がついた満場溜息のあと万雷の拍手。感動的だった。上位入賞次の通り。

種目	一位	二位	三位
近的	持永浩史（医大）射詰9	荒井寿一（吉田）射詰8	佐野裕雄（[illegible]）射詰0
遠的	深沢　勇（若草）6	山本　満（南部）5	望月豊昭（鰍沢）5

近・遠総合優勝は荒井寿一（富士吉田）

あとがき……

会報第一号を届けます。相変らずの悪文に今年もおつき合い下さい。よろしくお願いします。各地のニュースをお送り下さい。